

がん征圧

膵臓がんで07年に夫(当時56歳)を亡くした尾道市高須町の介護ヘルパー、渡辺田鶴さん(53)が、がん患者らが集まるイベント「リレー・フォー・ライフ・ジャパン2009 in 広島」(財団法人日本対がん協会、実行委主催)の実行委員になり、募金を呼びかけている。患者や支援者が24時間、交代で歩き続けるがん征圧を呼びかけるイベントで9月22、23日、中区の旧広島市民球場で、中国地方で初めて開かれる。

患者や支援者 24時間 呼びかけ

9月に広島イベント



会う機会は乏しく、孤立しがち。一緒に歩くことで大きなネットワークを

作りた。渡辺さんは07年3月、夫誓示さんは「1年もたないだろう」と医師に告げられたが、「健康に自信のある夫は落ち込むだろう」と心に

夫を亡くした「一緒に歩きネットワークを」

秘めた。がんの痛みに耐えながら、「治るのかな」と不安がる誓示さんに、「生きていく間にできることをしよう」と励まし続け体験を話した。「がんに携わる仕事格を取り、昨年10月から福祉施設で働く。今月初めには尾道市御調町の公

た。死期が近いことを知人には打ち明けられず、同4月、「夫に前向きになつてほしい」という気持ちで匿名でブログに書き始めた。同10月、誓示さんが旅立った後も、ブログを続け、「勇気付けられた」などと患者らからのアクセスが6000件を超えた。緩和ケアをテーマにした講演会では夫の看病「横顔はハンサムに見えるのよ」と夫誓示さんの遺影を見せる渡辺田鶴さん(尾道市高須町の自宅)。

【黒岩播光】